



本編47P

お姉ちゃん
遊びに来るわ

イトコの





かなと——っ
ひさしぶり——っ

わっ！

わざわざ玄関まで
お迎えに来て
くれたの？

い、いや……

あ！

うぐっ

またちょっと
大きくなったね

あー

あーもー
かわいいー！

ぎゅっ



はー
分かってる！

荷物が一杯
あるんだから
少しは運べ



いつか私より
大きくなっちゃうん
だもんねえ...

ちょ...
は、はるね...

おい
陽奈！



よお奏斗
悪いけどまた陽菜の
相手してやってくれ

うるさい
パパ

荷物下ろしたら
出かけるみたいだから
奏斗も用意しといて



あっ
おい！

久しぶりなんだから
挨拶くらいさせてよね



はい
これお土産

今日から三日
よろしくね

あ、ありがと



今日一日は…

んーっ

ちやうど

ちやうど

ご飯食べる
ときも…

街を歩いてる
ときも…

買い物する
ときも…

ガラッ

ふーっ

ずっと
はる姉と一緒に
クタクタだ…



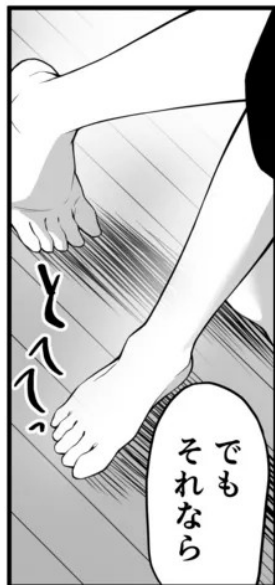














全然
そんなことないよ

もしかして私が怒って
いじめてるって
思っちゃた？



あーもう
可愛すぎーっ！



むしろ逆…

もっとお姉ちゃん
えっちなことしてっ♡



はる姉…
これ…
ヤッ
んぶ
ゴシ

これで
どう?
奏斗の好きな
匂いする?♡

…んう

ふふっ
本当にこんなので
悦んじやうんだね
すー

奏斗の
ヘンタイ♡

ん…?



んん…っ!

隠しちゃ
だうめ♡



あ
こらあ♡

んんっ!
ん—っ



すごい！
見て見て♡
奏斗のおちんちん
上向いてるよ？♡

んっ
んっ
んっ…

触らなくても
こんなに
なっちゃうんだあ

でもやっぱり
触ってほしい
よね？♡

それに触った
だけでこの反応…♡

わ！
おちんちん
すごい熱いよ！

動かしたら
どうなっちゃうん
だろうね？♡











その日
はる姉はいつもと
変わらないように
見えたけど

僕の方は昨日のことが
頭から離れなくて

ずっとはる姉のことを
考えている間に

気づけば一日が
終わりにかけていた



はる姉といると
胸がドキドキ
するし

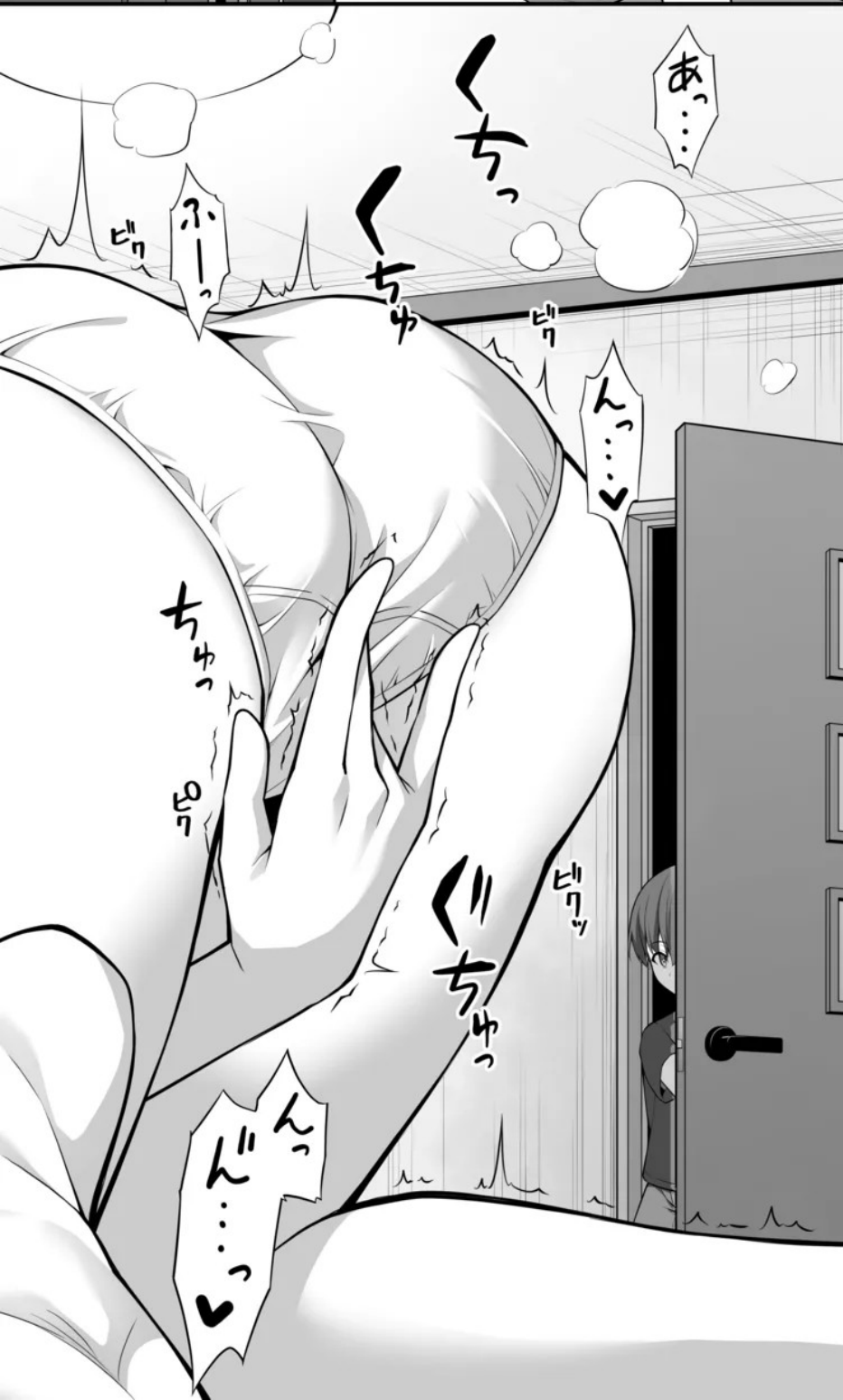


もっとはる姉の
そばにいたく
なって



はあ…
どうしよう…

昨日のあれが
やっちゃダメなこと
だってことは
なんとなく分かる…



……けど
またはる姉に
気持ちよく
してほしい…



でも…
おちんちんを
あんなふう
に弄るなんて



お母さんには
絶対言えない
ことだし…







こうやって
私がおちんちん
舐めてあげるから

奏斗はここ
ぺろぺろして
いっ……？

う
……
うん



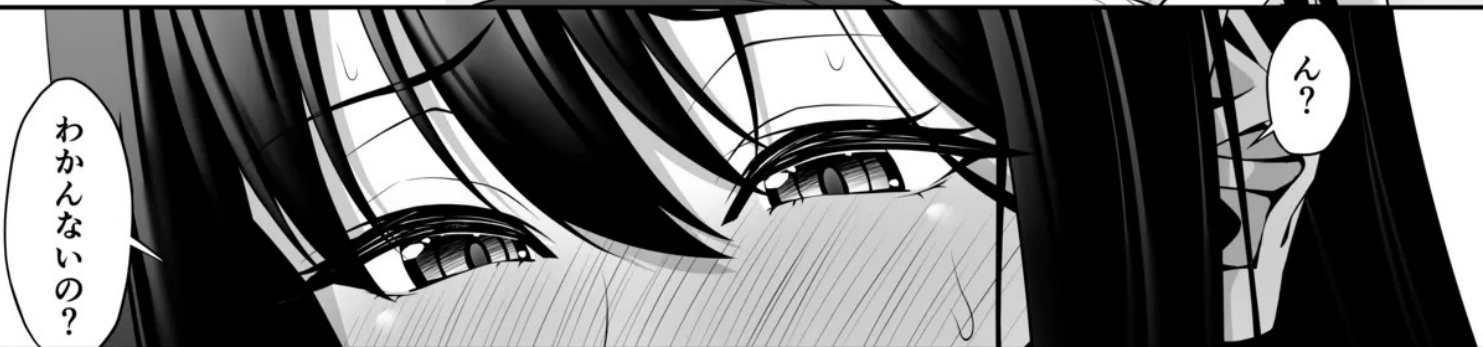
それじゃあ……

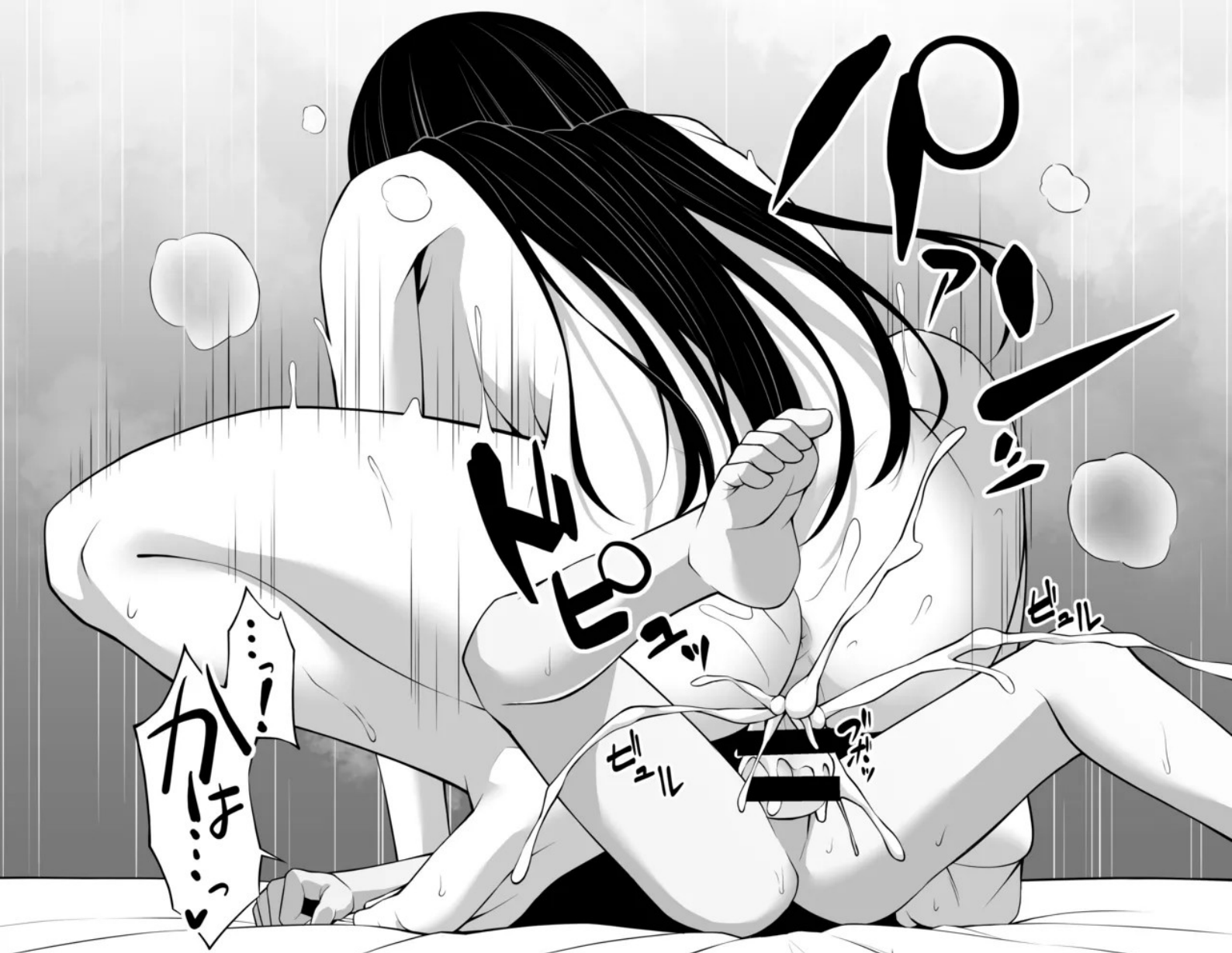


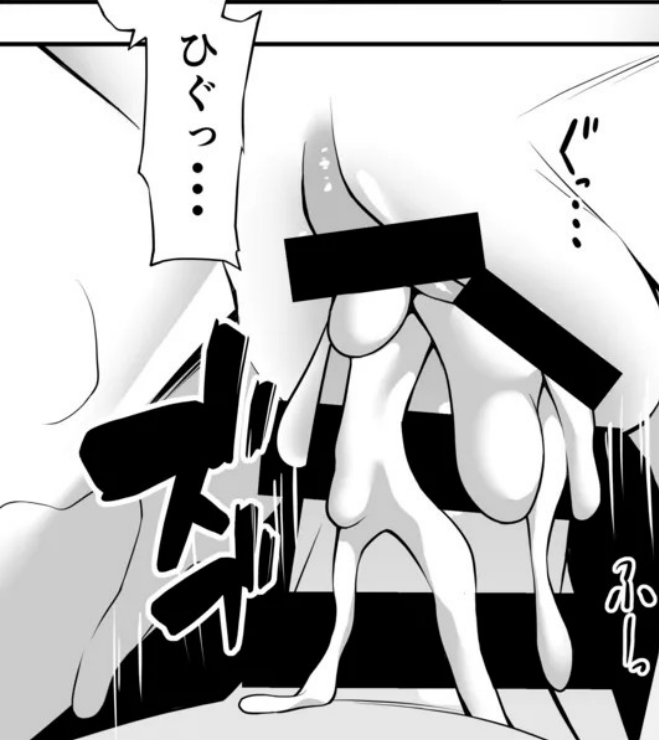
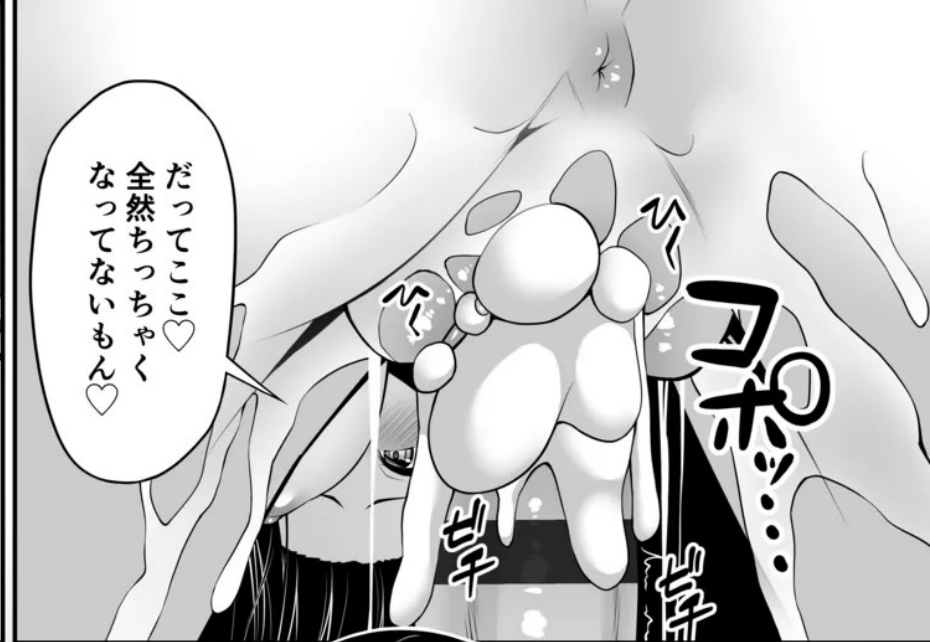
うああ……っ





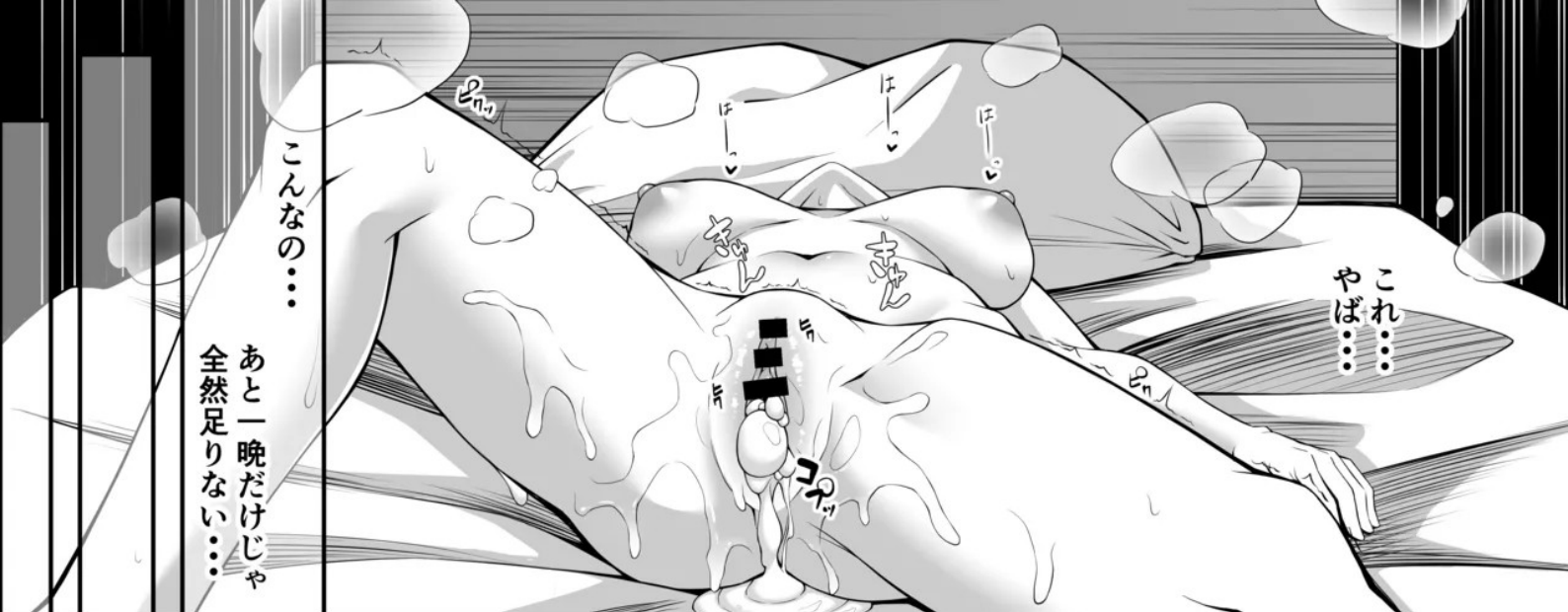












これ…
やば…

こんなの…

あと一晩だけじゃ
全然足りない…



ね 奏斗
私たち明後日の朝には
帰っちゃうんだよ

…うん

でもそれじゃ
こうして二人で
いれる時間が
少な過ぎじゃない？

それは
そう思うけど…

でも昼間は
みんなで出かけ
てるし…

そうそれ
そこが間違っ
たんだよ

え…？



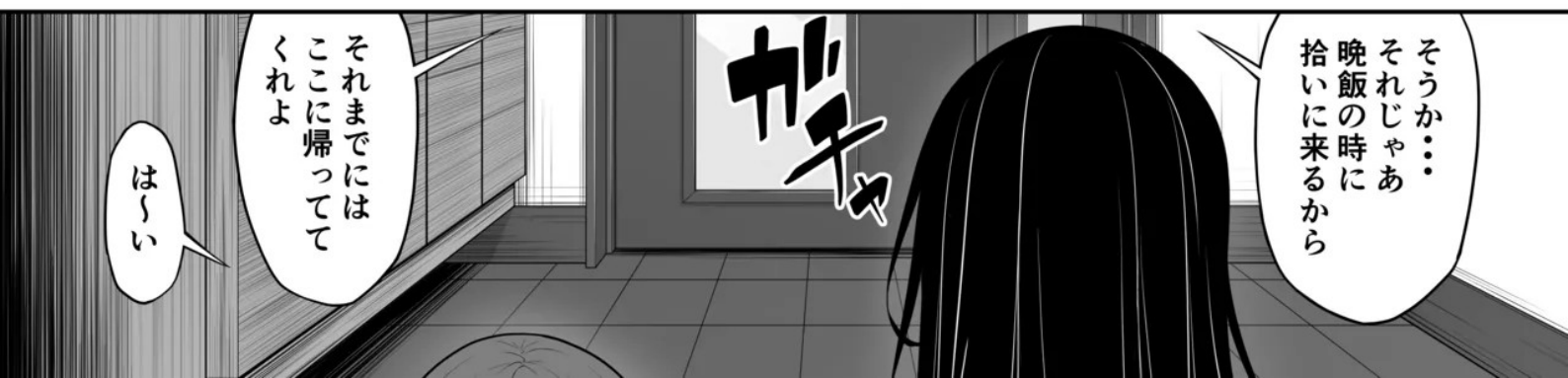
明日私たちは
家に残ろ？
そしたらあと一日
時間使えるでしょ

どうかな
…？

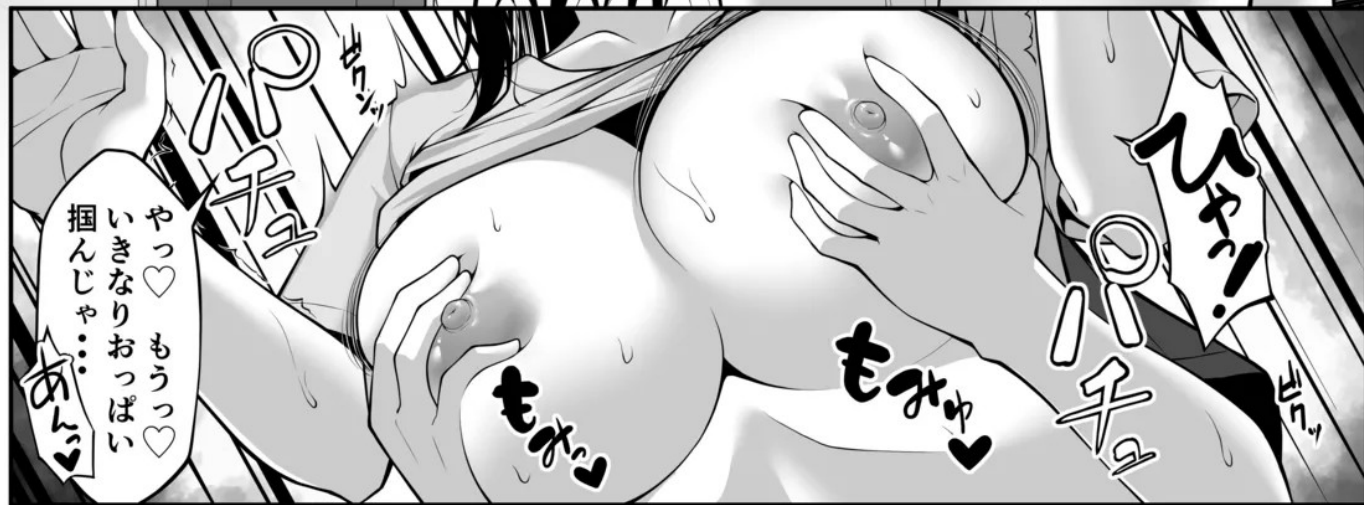
そう…だね
そうしたい…っ

ほんと！
やった♡

明日が
楽しみだね♡









それ...
やば...っ

ほんとにっ?
私のこと
好き?



あっ
すきっ

すきっ
はる姉っ
だいすきっ!



私のおまんこが
好きただけじゃ
ないの?

ちがうっ
はる姉がすきっ

じゃあおまんこは
好きじゃないのっ?

すきっ
はる姉の全部すきっ



奏斗に
イカされ...っ



すきっ

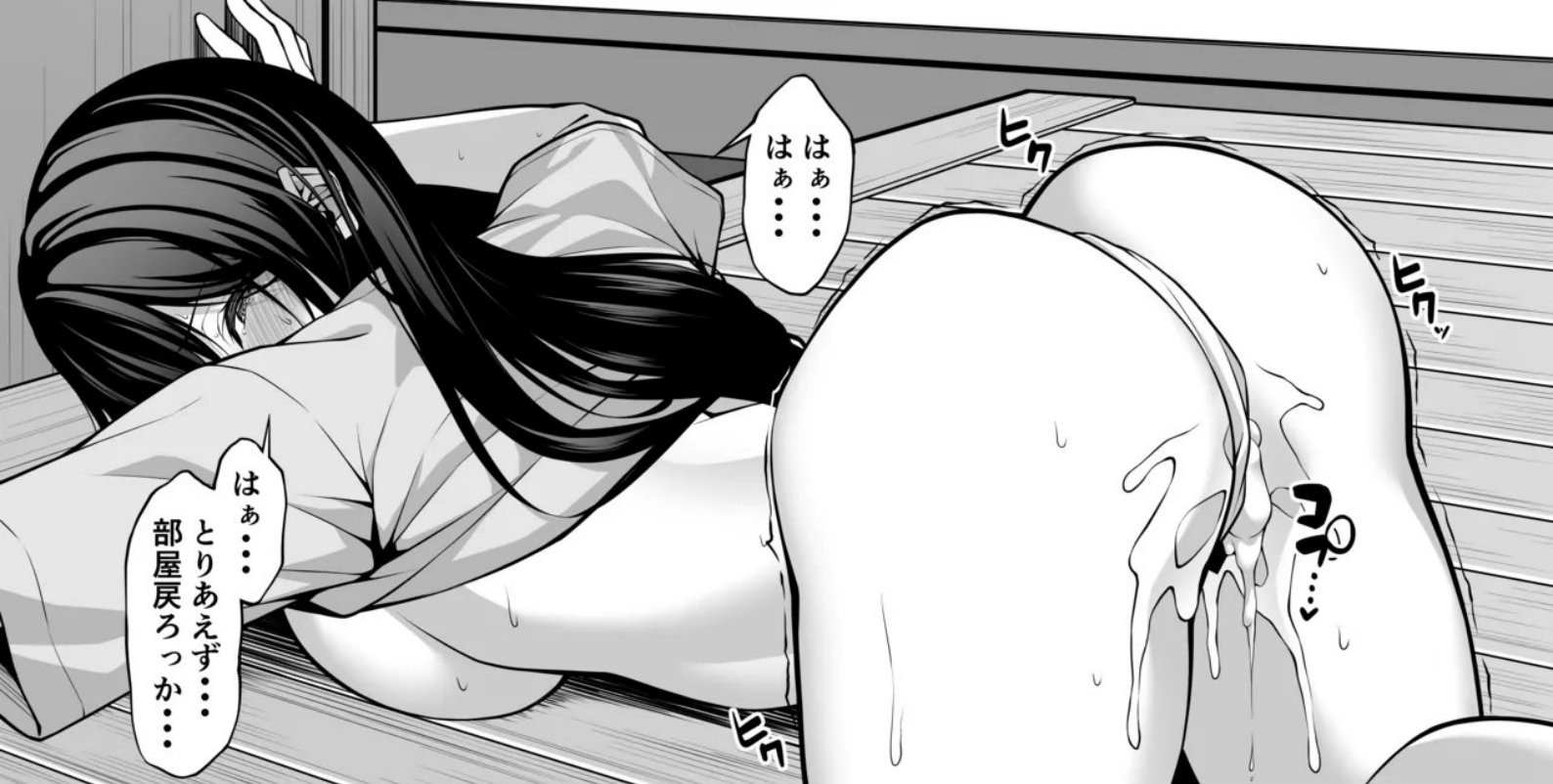
すきっ



すきっ

あっ
はるね...っ

すきっ



はあ…
はあ…
はあ…

はあ…
とりあえず…
部屋戻ろっか…

ちよつと前までは
奏斗も素直だった

何年か前の奏斗は
今とは全然違ってた

私のことが
大好きで

その気持ちを
隠すことも
なかった



…けど
それなら！

でも、ここ一、二年の間に
奏斗は少しだけ
大人になってしまった

素直さが少しずつ
無くなって私から
離れようとする…

年に数回でも
会える度に幸せに
包まれていた

私もそんな奏斗が
たまらなく
好きだったし



私が奏斗をもっと
大人にして
あげればいいっ！

恥ずかしさなんて
忘れるくらい私を
好きにさせる

その為にはこうするのが
二人にとって一番
いい方法だって気づいた

実際、今こんなにも
気持ちいいし
それにより——

奏斗の幸せそうな
顔が見られる……

私が幸せにして
あげられている……

それだけで……っ



はぁ
や...ばぁ
おしっこじゃ...
ないんだけど...
はぁ

ちよ...っ!
臭がないで...

ん...
じゃあこれって
何なの?



えーと...
たぶん潮?
気持ちよくなると
出ちゃうみたい

汚してごめんね
後でちゃんと
掃除するから

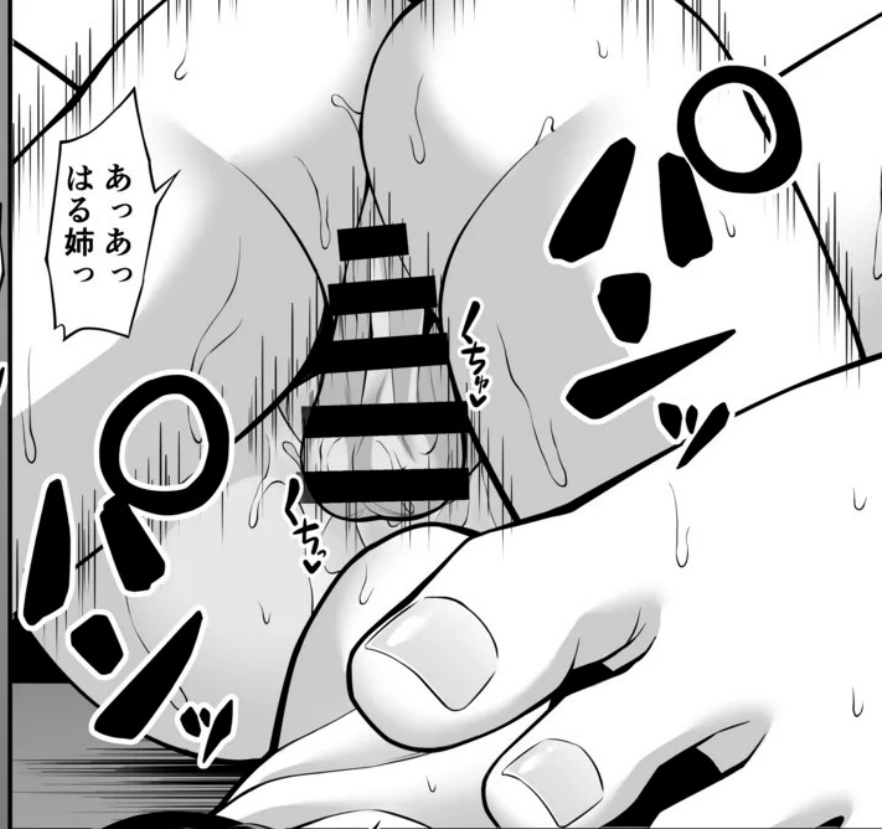


えり?
おしっこしてる?



今はこっち...

おちんちん
もつと
ちようだい...♡





ねえ
どうやっていききたい？
お願い聞いてあげる♡



ん？そろそろ
出ちゃう？



じ じゃあ…
はる姉に包まれ
ながらがいい…

あ♡
出しちゃお？
私もいくから♡



こういう感じ？

身体中…
ふわふわで…っ

これっ
すごい…っ

スリチュ

スリチュ

はる姉の
匂いが…っ
あっ あっ

